

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 淀川区
学校名 西中島小学校
学校長名 小坂 元彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西中島小学校では、第6学年 12名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科では、「B書くこと」については、全国平均を20ポイント以上も上回っている。昨年は全国平均を下回っていた「言葉の特徴や使い方に関する事項」についても今年度は大きく上回っている。一方で昨年は全国平均を10ポイント以上下回っていた「読むこと」については5ポイント程度下回っている。算数科では、「B図形」「C測定」「C変化と関係」においては全国平均を大きく上回っているが、「Dデータの活用」については全国平均を下回っている。理科については「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域は全国平均を上回っているが。「生命」を柱とする領域は全国平均を20ポイント近く下回る結果となった。

児童質問紙からは、問題解決学習や話し合い活動を通して学習を進めていくことができていることや、将来の目標や夢を持っている児童も多いことが分かる。一方でICT機器使用のルールが定まっていない実態があることや自分で決めたことをやり遂げることについては課題が見られる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「書くこと」については、授業で書くことにつなげるために物語文や説明文を読む活動を続けて成果が表れていると言える。漢字検定の取り組みも継続している中で、漢字については成果が出ている。「読むこと」については昨年度に比べて改善傾向が見られるものの、依然として読書量の少なさは課題となっている。「話すこと・聞くこと」については、重点的に考えた取り組みの少なさも課題と言える。

[算数]

普段の授業から個別に課題を把握し、学びサポーターの支援によってきめ細やかに指導を行ったりしたことが成果として表れている。また放課後補習充実事業により、宿題やわからないところの学習をサポートしたことも結果に結びついている。一方で基礎をもとにデータを活用する学習を積み重ねる必要もある。

[理科]

実験や観察を中心とした体験的な授業を通して、児童が主体的に課題に取り組んできたことが成果として表れている。ほとんどの領域で成果が出ている一方で、課題のある「生命」を柱とした領域については知識・理解の定着に向け、考察やまとめの活動をより重点化していく必要がある。

質問紙調査より

放課後や週末の過ごし方については、昨年度より家庭や家庭以外の場所で学習に取り組む児童が増えている。学習でわからないことがあったときは先生に聞く児童が多い一方で自分で調べるという児童が少ない。また、自分で見つけた課題に最後まで取り組むことができる児童の割合も少ないことも課題と言える。算数のデータの活用でも見られた課題であるが、自分で課題を見つけ解決する力をつけていく必要がある。授業では、課題を解決するために自分で考えたり友達と話し合ったりすることで学習内容の理解が高まると共に、学び方を身に付けられるようになってきている。系統立った学習活動となるよう引き続き力を入れていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

データの活用や自分で調べて課題を解決する力に課題が見られるので、テーマに沿ってプレゼンを作成し全校児童の前で発表するプレゼン集会や、学習したことをICT機器を使ってまとめていく取り組みなどを通して情報活用能力の育成を図っていく。体験的な学習が難しい領域についても、動画などを駆使してICT機器の効果的な活用を進めていく。昨年度まで課題となっていた部分についても、毎日5分間のぐんぐんタイムを設定して基礎・基本の定着を図ったり、朝の読書タイムを設定して読書時間を確保したりして、取り組みを充実させて継続していく。放課後補習充実事業や学びサポーターを活用したきめ細やかな学習支援体制は確実に成果となって表れているので、今後も継続して取り組んでいけるように、体制を充実させていきたい。